

会 議 記 録

会議名称	第 2 回 杉並区みどりの基本計画検討委員会	
日 時	令和 5 年 10 月 4 日(水) 10:00 ~ 12:00	
場 所	杉並区役所分庁舎 5 階第 A 会議室	
出席者	委員	9 名
		河村委員、佐藤委員、竹内委員、和田委員、石川委員、稲田委員、武井委員、野田委員、峰岸委員
	事務局	5 名
		都市整備部土木担当部長：土肥野 都市整備部みどり施策担当課長：吉野 都市整備部みどり公園課長：大場 都市整備部みどり公園課みどりの計画係長：北澤 都市整備部みどり公園課みどりの計画係：長谷川
傍聴者	3 名	
資 料	○次第 ○杉並区みどりの基本計画検討委員会（第 2 回）資料 ○（別紙 1）他自治体の緑の基本計画の目標 ○（別紙 2）他自治体のみどりの現状と目標値 ○（別紙 3）みどりの基本計画取組一覧	
会議要旨 1 開会 ○事務局 資料の確認。会議録を作成し区公式ホームページで公開するため録音すること、傍聴人 3 名であることについて説明。 2 議題 ○事務局 杉並区みどりの基本計画の改定の視点について説明。 ○進行役 ただ今の説明について、ご質問・ご意見をお願いします。 ○委 員 改定の視点 P8 について、ゲリラ豪雨についての言及もあってもよいのではないのでしょうか。また、P9 杉並の原風景から見る“杉並らしい”みどりのあり方については、具体的な観		

点があってもよいと思います。“杉並らしい”という改定の視点について、沿線かどうかで状況は異なります。五日市街道、井の頭沿いには屋敷林がまだ残っているが開発でなくなりつつあるので残す取組について言及していくとよいと思いました。

○委員 改定の視点の中に、後世に伝える“杉並らしさ”の保全とあります。杉並の点在している緑をつないでいくというような考え方ではなく、エコロジカルネットワークという考え方について記載されています。ウォークブルのような暮らしの中でみどりを感じることができる、みどりをつないでいくまちづくりの視点が必要だと思いました。例えば、杉並のみどりを見ながら歩く中で、そこに公園があったりお店があったりと暮らしの中でみどりを感じてもらいたいというイメージです。海外のみどりの先進都市では、緑道があり、そこにサインがあります。そのサインを見ることで新しいみどりの学びや活動を知ることができる、歩いて楽しめるまちづくりがあります。また、P6「協働によるみどりづくりの仕組みの確立」から、「みどりに関わる多様な立場を理解し、自分事として考える」と変わりました。しかし、これでは仕組みを作るうえでは視点が弱いです。自分事として考えるだけでなく、官民連携して、どのようにすれば区民の方が自分ごととして考えてもらえるのかまでレベルを上げてほしい、今のままでは勿体ないと思いました。

○委員 潜在性のあるみどりをつなぐという観点からすると、学校の緑は傷んでいて、場合によっては枯れているのが現状です。教育現場の緑はとても重要だと思っていて、充実したみどりを作り、繋げることが大事だと思いました。そのような教育現場の記述がないのが問題だと思いました。教育現場は授業時間を確保することは難しいと伺っていますが、みどりに親しみを感じる仕組み（授業）を考えてほしいです。また、自分ごととして考えるということでは、みどりに関心がある人は徐々に減少していると思います。興味のない人にみどりを振り向かせるためには、例えば、防災、みどりの魅力を表現して、みどりを親しむアクションプランみたいなものが必要だと思います。また、そこへの人材も必要だと思います。そのような仕組み作りが必要だと思いました。

○委員 大枠としては良いですが、流域治水というキーワードを文言として加えてはいかがでしょうか。流域治水とは、そこに住む人が流域全体で豪雨、浸水対策をするという考え方です。河川は将来的に100mm対応まで目標としていて、それには流域治水の考えが不可欠です。また、倒木が増加傾向にあると思いますので、樹木の維持の視点も入れてはいかがでしょうか。

○委員 視点を4つにしたのは良いと思いますが、改定の視点の中で、文言を区民目線で書いてはいかがでしょうか。政策としては、首都圏の中で頑張っている区だと思いますので、その取組成果も見えるようにした視点を記載していくのがよいと思います。1点目、気候危機は大きな問題ですが、区民目線で見ていくと、流域治水と都市の高温化について生活の中で感じる部分が多いので、そこに響く文言を検討するとよいと思います。例えば、多様なみどりをつなぐ、流域治水に配慮することが都市の高温化を防ぐことに繋がるなど。2点目、グリーンインフラについてはよいですが、区民が生活にどのように関わることが分かりづらいです。農地は防災に役立つことや、河川改修による創出された広場や緑地、住宅

地の建て替えて創出された緑地がネットワーク化されることで安全安心に繋がるという表現にしてみてもいかがでしょうか。3点目、杉並らしいみどりのあり方についてですが、杉並は荻外荘など歴史的文化を大事にしていると思います。昔からの屋敷林、文豪など歴史的な文化を大事にしていきたいということをストーリーにしてみてもいかがでしょうか。4点目、みどりを自分事のごと”はひらがなの方が柔らかい表現になります。また、“考えてもらう”のではなく、“みどりを大切にしてもらう”ために、みどりの場を通じて一人一人区民が繋がる、みんなが自分ごととしてみどりを育てていくといった表現がよいです。その例として、農福連携、病院などが結びつきやすくなるように区で連携していくといったことが書けるとよいと思います。

- 委員 P7 についてですが、東京都の場合は、年平均気温変化は気候変動ではなく都市化に伴うヒートアイランド現象に起因する方が大きいです。ヒートアイランドというキーワードを入れておかないと誤解を招くおそれがあります。
- 委員 ヒートアイランド現象に伴い、夜に熱気が東側から西側に空気が流れて雨が降るという因果関係があります。例えば、副都心の冷暖房の排熱の影響などはシミュレーションもされています。因果関係の背景はおさえておいた方がよいです。
- 委員 都市化に伴う、豪雨の文献やシミュレーションもあります。
- 委員 改定の視点についてはよいと思います。
- 委員 改定の視点の中で、1点目、多様な生きものについても言及されています。生物多様性については、年平均気温変化もありますので、どれくらい多様性が低下しているのかデータがあると説得力があります。2点目、グリーンインフラについては、雨水をどの程度浸透させるのかなどの具体的な目標値を最終的に定めるとよいと思いました。3点目、自分ごととして考えてもらう表現はよくないと思いますし、区民が公園緑地を柔軟に使いこなすことができる仕組みを作るべきです。役所も使いやすい公園にする仕組みを考えて下さい。最後に、見える化ができていないので広報活動が必要だと思います。例えば、レインガーデンのような施設を作ったら遊べる施設という広報と一緒に教育面も盛り込む工夫など、付け加えていけばよいと思います。
- 委員 改定の視点を読んでも、自分の生活とリンクさせる具体的なイメージができませんでした。自分にとってのウェルビーイングがみどりと思っていない人もいます。みどりを自分ごととして考えることができるようなプログラムがあるとよいと思いました。
- 委員 P10の中に、一人一人がみどりに関心を持ち「自分事」として～と書いてあるが、ボランティアによる落ち葉掃きや花壇と記載されているだけでは伝わっていないと思います。もっと、具体的に記載した方がよいと思いました。
- 委員 社寺仏閣も杉並の文化性、歴史だと思います。このような施設は、みどりが残っていることから、みどりをつなぐ視点として加えてはいかがでしょうか。
- 事務局 改定の視点を絞りましたが、区民目線でどう伝えていくのか今後検討してまいりますし、また、ご意見をください。
- 事務局 ご意見をいただき、改定の視点にヒートランドや、グリーンインフラについては具体的に

流域対策も加えて記載してまいります。杉並らしいという表現につきましては、つなぐ、ウォーカブルというお話もあり、重要な発想だと思いました。杉並区でも現行政策としてみどりのベルトづくりがあり、今後も継続していくつもりなので改定の視点に文言を記載したいと思います。また、自分ごととして考えてもらうのではなく、みどりの場や機会で区民をつないでいくようなことを考えてまいります。

- 事務局 杉並区みどりの基本計画基本方針及び目標値の設定、取組一覧の説明。
- 進行役 ただ今の説明について、ご質問・ご意見をお願いします。
- 委員 接道部緑化率から緑視率に変えた理由はなぜでしょうか。相続などによる敷地分割の影響なのでしょうか。
- 事務局 敷地分割は関係ありません。接道部緑化率よりも緑視率の方が説明すれば理解してもらえる指標であると考えたことなどから変更しました。
- 委員 緑視率については、区民目線で実感できるのでよいと思います。しかし、みどりの実態調査報告書を読むと、みどりの有無が偏在しているように思います。緑視率平均 25%に加えて、緑視率 10%未満をなくすなど加えてはいかがでしょうか。また、同報告書にある緑地分布図をみると、みどりの有無が同じように偏在していました。何も無いところにみどりを創出する視点（目標値）を加えた方がよいのではないのでしょうか。そうすれば、先ほどウォーカブルというお話がありましたが、歩いて行ける範囲にみどりが無いという偏在に向き合うことができると思いました。同報告書の満足度調査を読むと、全体的にはみどりについて満足している方は多いです。一方で、5、6人に1人は満足していない人もいます。つまり、エリアによっては満足していない人もいるという可能性があるということです。このことを踏まえると、偏在したみどりを無くすための目標値が必要だと思えます。
- 委員 現行みどりの基本計画2章基本方針の目標は背景と施策を結びつけるので重要だと思えますが、現状は唐突感があります。因果関係についてきちんと整理してなんでと思わせないように記載する必要があります。
- 委員 みどりのない空白地帯についてどうするべきか考えた方がよいです。ニューヨーク市では、徒歩10分圏内に公園を配置する目標値をたててほぼ目標を達成しており、ロンドンやパリも追随しています。家の近くに公園があることが目標だと市民目線で実感しやすいです。西東京市では保育施設のまわりにどれだけ公園があるかという視点でも検討しているところですが、そろそろ、平均のパーセントのみで示すのではなく、暮らす区民目線から見た目標値も加えていくべきです。次に、P23にみどりの量の確保とみどりのネットワークという記載があります。これは、みどりの拠点づくりや身近な公園の整備が改定の視点の中でつなぐというキーワードと一致するかと思います。区民が歩いて楽しめる、空白地帯への対応とつなげて公園を整備するというような、ネットワーク化するというような書き方がよいです。次に、区民主体のみどり作りというと直接植物を増やすイメージがありますが、みどり作りには、みどりの手入れのみではない活動も含まれると思います。区民が使いやすい仕組みづくりを考えていくべきです。どうすれば利用しやすい仕組み作りに

なるのかを検討して下さい。

- 委員 桃井原っぱ公園の様子を観ていると、時間帯によって利用する年齢層や利用形態が異なり、誰がルールを決めるわけでもなくそれぞれが利用しています。ある程度広いスペースがあると、暗黙のルールができるが、作ってしまうと壊れてしまうので、地域が使いやすいオープンな公園にすることがよいと思います。緑被率、緑視率など難しい数値があり、この数値は重要だと思います。一方、福祉、園芸分野だと、笑顔率、にこにこ率といった指標もあります。これは、患者様やお見舞いに来た人が花壇をみると笑顔になるといった指標です。このような指標と絡めることができれば、より区民が実感できるのではないかと思います。
- 委員 定量目標も重要だが、定性目標も重要であると思いました。
- 委員 学校教育現場からすると、副読本が届いても配布する先生や配布しない先生もいるのが実情です。配るだけではない、その先を含めた仕組みが必要だと思います。授業に取り入れるならば学校の先生を育てる必要があり、そうでなければ子どもも育ちません。この問題点をどうしていくのか仕組み作りが必要だと思います。
- 委員 農地の保全の中に、農とのふれあいの機会や充実があります。杉並区の農地があるのは、区の西側に集中しています。つまり、区の東側の区民には全然響かないと思います。公園や学校の一画にふれあい農園を作るなどの取組がないと農地とふれあう機会はないと思いました。
- 委員 緑被率は継続している事柄なのでよいと思います。接道部緑化率は、他の自治体が行っておらず比較のしようもないので、今後は目標値としてなくてもよいとは思いますが、緑視率に関しては、雑草などもみどりとしてカウントしてしまうので課題に感じました。次に、区民満足度についてですが、他の自治体と比較して杉並区の目標値は非常に高いのだなと思いました。杉並区ではこの数値は維持するのでよいと思いました。基本方針は3つの方が分かりやすいと思いますが、実務的に4つになるのであれば、それはそれでいいと思いました。基本方針ごとで分断するのではなく、それぞれがリンクするよう作っていくとよいと思いました。
- 委員 多世代が利用できる基本方針の中に、バッファもあある公園区の設定がされているので考えを生かしつつ、都立公園も含めて、アクセシビリティについて目標を設定して欲しいです。小さな公園の誘致 200m もプロットすると良いと思いました。幹線道路と線路があるルートは現実的ではないので、GIS で公園の入口から歩いて行ける距離を算出できます。可視化して、みどりの空白地帯なくしていくことが必要なのではないかと思いました。
- 委員 ヒートアイランドや生物多様性についての具体的な目標値の設定についてどうするのか考えてはいかがでしょうか。例えば、雨水を浸透するのに何%とするか、それに対して、緑地を何%必要なのかということです。どの計画に入れ込めばいいのかわかりませんが、具体的に絞った目標値を作成した方がよいです。次に、取組一覧について、みどりの関心の向上とありますが広報活動についての記載が無いので、加えた方がよいです。みどりの基本計画を区民の何%が読んでいるのか目標値をたててもいいのではないのでしょうか。次

に、農地、学校とみどりの連携というニーズはありますが、行政のみではニーズに対応できません。ですから、中間支援組織のようなハブが必要で、協働して政策を進めていくべきだと思います。

○委員 公園の質を高めることも考えてはいかがでしょうか。現状として、同じ公園ばかりで残念です。また、住宅から見えるみどりは資産です。そのことについても触れてみてはどうでしょうか。みどりの魅力アップをどう図っていくのか考えた方がよいです。農地について考えると、身近な農や食と子どもとのつながりがだんだんと難しくなっていると感じています。そのことについても考えて下さい。

○委員 みどりを守ることは、結局お金がかかります。助成してもらえるとそれは嬉しいですが、そうではなくて、所有しているみどりを維持したいという気持ちを醸成する取組が必要だと思います。以前は、すぎなみまちデザイン賞がありました。そこで、その時に頂いたプレートを置いておくと通りがかりの人に尋ねられたりします。みどりは気持ちいいよねと言われると、みどりを守る心が芽生えました。助成だけではなく、表彰するというような取組も必要なのではないのでしょうか。

○委員 浸透率などを区では目標設定しているのでしょうか。できるだけ正確な浸透率と浸透能を計算することはできます。しかし、実際に把握するのは難しいです。

○委員 浸透率を引き合いにどういったみどりを増やしていくのが見えてくるのでよいと思います。カナダのバンクーバーでは、レインシティストラテジーという戦略を立てて、24 時間以内に 48 mmの水量を浸透させる取り組みがあります。その取り組みの中で、公園整備も官民連携して進めています。既存の踏み固められた公園もリニューアルしています。場所としてはブリテッシュコロンビア州です。ここでは、井戸みたいなものがあり、子どもが上から流して遊ぶ、湿地やビオトープもあるいい例です。そのようなことを日本でも広報する必要があります。

○事務局 グリーンインフラは河川氾濫を起こすのを防ぐための流域対策なのかと思っていますがどうなのでしょう。

○委員 国土交通省が言うグリーンインフラは雨水浸透に限らず、健康づくりやコミュニティ形成など広い意味で位置付けられています。

○委員 農地、屋敷林はグリーンインフラとして機能が高いですが、きちんと守っていける仕組みが日本にはないので、どう守っていくのか杉並で打ち出すとよいと思います。

○委員 豪雨対策基本方針の中で換算する流域対策の指標としては施設の積み上げだけなので課題があります。土地利用による浸透能の違いなど数値では難しいとは思いますが、豪雨対策基本方針と緑地をつなげたいです。

○事務局 みどりの役割の一つの指標として浸透量を使うなどはあると思います。

○委員 幅広くとらえた上で、グリーンインフラは各自治体の課題に応じて決めていってよいと思います。

○事務局 ここに力を入れるという考えの中で定義していくのはいいと思います。

○委員 みどりの価値というのが計画の中で始めに説明があるとよいと思います。

- 委員 みどりの更新について考えてみると、屋敷林のみどりは以前活用していましたが、今はしていないように思います。密になった緑をどうするのかなど、今後更新の方法についても考えたほうがよいです。
- 委員 活用という観点からみると、中瀬幼稚園などは自宅の屋敷林を幼稚園にした例もあります。
- 委員 「民間を活用した」は分かりづらいので、民間活力が良いです。できれば、事業者、企業、学校などパートナーシップの促進という文言も加えてみてはいかがでしょうか。民間活力も公園だけではないので書き方を変えた方がよいです。
- 事務局 目標については偏在したところをなくすというものは今後検討してみたいと思います。ほか委員からお話しがあった目標をなんで設定したかを示すのはとても大切だと思いますので、書き方を工夫したいと思います。目標は前回検討委員会からのご意見を踏まえて3次元の評価ができる緑視率を入れたが、緑視率はそのままで追加して目標を設定したほうがよいという理解でよろしいでしょうか。
- 委員 そのとおりです。

3 連絡事項

- 事務局 次回のスケジュールなどについて説明（省略）